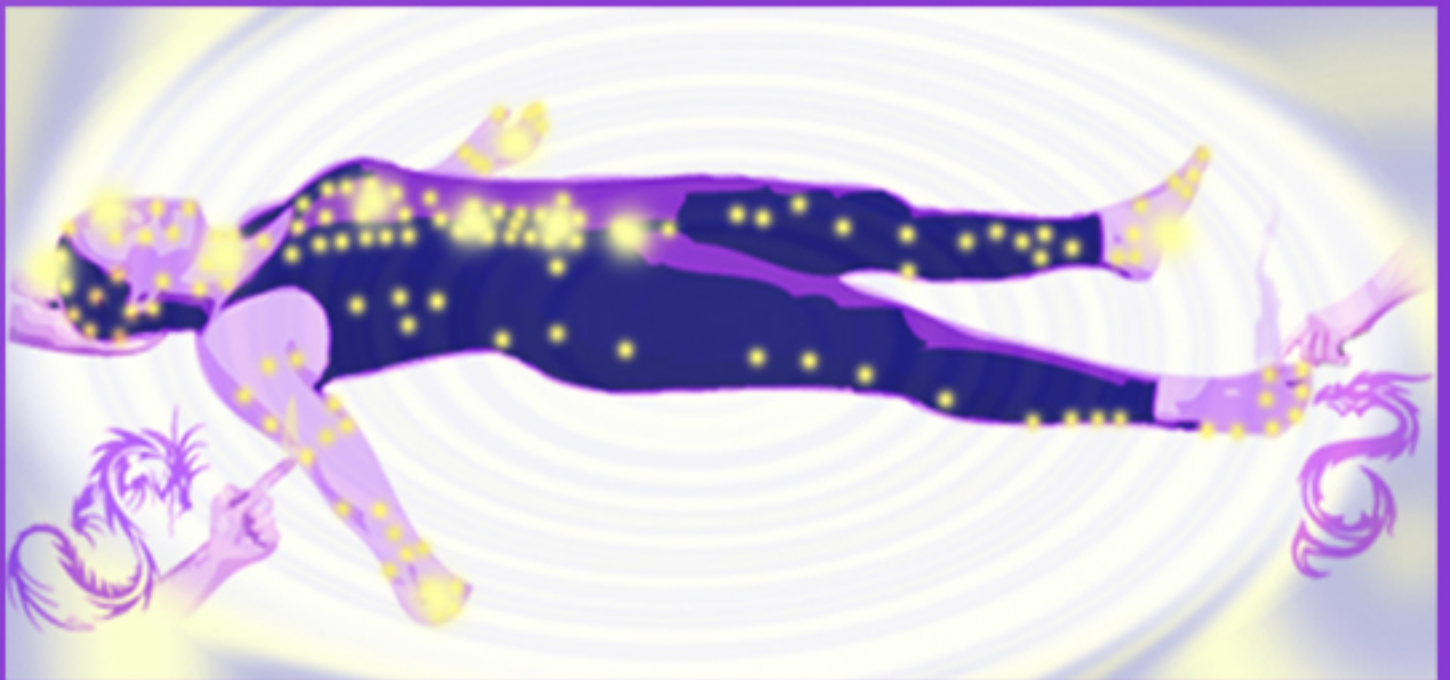


ULTIMATE HEALING A HANDBOOK



Peter Aziz

アルティメットヒーリング ハンドブック

ピーター・アジズ

このハンドブックは、シャーマンのピーター・アジズが指導する[アルティメットヒーリング・コース](#)および[ボディエレクトロニクス・アドバンスド・ポイントホールディング・コース](#)のための補足資料です。詳しくは、www.azizshamanism.comをご覧ください。

アルティメットヒーリングは 30 年間に及ぶシャーマニズム経験と内分泌学ならびに量子物理学に関する科学研究によって編み出されました。このヒーリングメソッドによって、保存されているトラウマや制約や行動パターンの解消、意識の変容、気づきとパーソナルパワーの拡張、身体の再生、生命エネルギーの回復が可能となります。これがどのように機能するのかを説明するために、まずは創世神話から始める必要があります。

はじめに、女神は一粒の愛の泡を吹き出された。それは女神にとってはかなり小さな、直径わずか 3000 億光年の泡であった。女神はその泡に生命を吹き込まれた。すると、女神の光が泡の中に入り込み、泡の表面で反射を始めた。そうして光によって生じた干渉縞はユニヴァースとなった。

近年、科学者は球体ホログラムを考案しました。ホログラムの表面に光ビームを反射させると三次元の像が現れます。では、球体ホログラムが実際に完成したとして、穴を通じて光ビームを入射すると、その内部には多重反射によって複雑な三次元の世界が生成されるはずですが、ユニヴァースとはそのように光の干渉縞からすべてが生じる三次元ホログラムのようなものなのです。

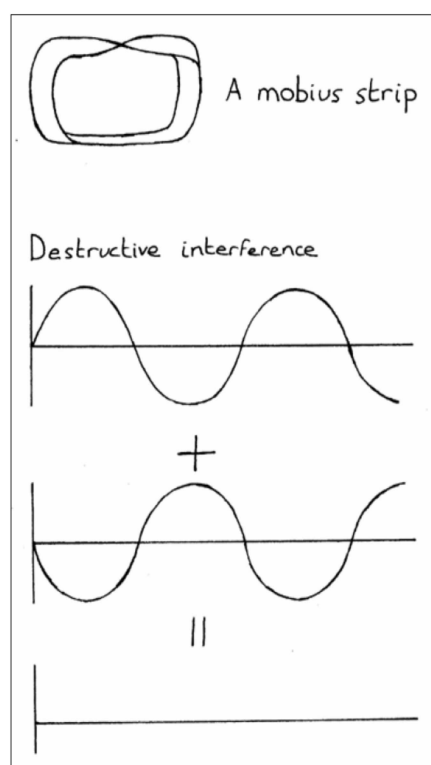
世界がじつのところ固体でないのは科学界ではかねてより知られた事実です。世界は原子で構成されています。そして、原子の間にはかなりの空間があり、ある物質がほかの物質を通り抜けられないのは、運動している電子のエネルギーフィールドによって阻止されているからです。科学はさらに、原子もじつは固体ではないことを発見しました。原子は小さな原子核を内包し、原子核を取り巻く幅広い軌道には電子が動き回っています。固体物質の実際の総計は非常に微量であり、もしも地球がニュートロニウム（中性子のみから

なると仮定される非常に高密度の物質) に圧縮されたとすると、すなわちすべての電子がそれぞれの原子の原子核の中に折りたたまれたとすると、地球のサイズは直径 1 cm ほどになるはずで

科学はそれに続いて、原子核もまた固体ではないことを発見しました。原子核は陽子と中性子という粒子から構成されており、その間にはかなりの空間があります。陽子と中性子はクォークというより小さな素粒子に分割され、それらクォークの間にも空間があります。クォークはさらにニュートリノに分割することができます。しかも、クォークだけがニュートリノでできているのではなく、クォークの間の空間さえも異なる振動数で振動するニュートリノでできているのが発見されました。つまり、物体があるか無いかの違いとは、ニュートリノの振動数の違いでしかないのです。

科学者たちはある瞬間にあるものとして存在しているニュートリノが次の瞬間に別のものとして存在しうるのはなぜなのかを解明するために実験を行い、ニュートリノはいつも予想されたかたちになるのを発見しました。いうなれば、物質とは意識によってつくられる幻想だという神秘主義者たちの説が裏付けられたわけです。波動と粒子の二重性は、粒子は観察されるまで波動であることを示しています。観察によって波動が粒子になります。全ユニヴァースは波動パターン以外の何ものでもなく、意識することによって現実のものとなります。そして、身体とは私たちが創造するもっとも個人的な物質であり、私たちの思考、感覚、信念、態度、選択、決断を反映しているのです。

以上の事柄をヒーリングに応用する方法を理解するためには、思考パターンが体内でどのように結晶化されるのかに目を向ける必要があります。あらゆる知覚体験および思考と感情は電気の波を生じさせます。この波は身体の DNA 分子を通り抜けていきます。その際、DNA の二重螺旋構造は向かい合う 2 本の鎖が逆方向に渦を巻いているため、DNA 内を通り抜ける波はすべて、同時に、両方向に進みます。その結果、方向を持たない情報波、スカラー波が発生します。スカラー波は私たちが意識的に体験しているときは脳内の脳梁内部を移動していきます。脳梁はメビウスの帯のようにねじれた環状構造をしているため、そこを通過する波は位相が 180 度変化し、それによる相殺的干渉によって DNA コイルに蓄積されている波は打ち消されることになるのです。



無意識的な思考や感覚、あるいは十分に意識されなかった知覚体験はすべて、DNA コイルの中に波動としてとどまります。この電氣的波動はメラニタンパク質複合体を引きつけて結晶を形成します。そのようにして抑圧された体験や思考や感情は体内の DNA 分子に結晶となって保存されていきます。身体はさながら三次元ホログラムのようであり、DNA 内の各部分は身体のさまざまな部分に影響します。いろいろな感情がそれぞれ異なる臓器に保存されていき、そのせいで結晶化が生じた臓器は正常に機能できなくなります。DNA の7つのコイルは7つの内分泌腺と共振し、7つの内分泌腺は7つの異なる感情を保存し、それら7つの感情は一定のステージに沿って抑圧される傾向があるのです。

無条件の愛とエンシュージアズム（好奇心や喜びや熱意をもって物事に取り組もうとする心持ち）を伴って人生を体験しているとき、生命力は完全に私たちの内にあり、いかなる抑圧もありません。じつに「エンシュージアズム」という語は、「あなたの内に在る神」を意味しています。エンシュージアズムは松果体と共振します。エンシュージアズムが不足していると、松果体の石灰化を招きます。無条件の愛を欠いた状態で人生を体験していると、物事に対して善悪の価値判断を下したり抵抗したりするようになり、それゆえ痛みを感じるようになります。痛みとはつまり分離した状態です。分離とは物事がどう在るべきかについての見解と現実が一致しないときに起こります。痛みは下垂体に保存されています。痛みをこらえると怒りが生じます。怒りは甲状腺に保存されます。怒りを我慢すると逆境が続くことを恐れるようになります。恐れは胸腺に保存されます。恐れを抑圧すると被害者となり、世界に背かれているように感じ、深い悲しみを体験します。悲しみは副腎、膵臓、ソーラー・プレクサスに保存されます。悲しみを抑え込むと、挫折し、絶望し、感情が鈍麻します。アパシー（感情鈍麻または無関心）は脾臓に保存されます。絶望感はいよいよ死の願望を生み出します。末期疾患の患者は脾臓に死の願望が保存されているはずです。最終的には心を完全に麻痺させて、すべての感情を抑圧し、無意識に埋没します。感情麻痺は性腺（精巣または卵巣）に保存されます。薬物、麻酔、催眠術などの無意識的な体験もすべて性腺に保存されています。あらゆる身体問題や病気は感情の抑圧パターンと関係しており、抑圧された感情は身体を損傷する傾向があるのです。

ヒーリングは愛がなければ始まりません。無条件の愛のエネルギーは高次のヴァイブレーションに共鳴し、それにより低次のヴァイブレーションが浮上して体外に排出されます。排出されるヴァイブレーションは脳梁を通り抜けていき、意識的に体験されます。そして、患者（被術者）は感情のステージを上りはじめます。その際は、エンシュージアズムを伴って、抵抗することなく、それぞれの感情を体験するよう励まされます。まずは麻痺感から始めますが、そのときは麻痺感を徹底的に感じ取らなければなりません。それができた

ら次のステージである絶望感とアパシーに進みます。それに続いて、悲しみ、恐れ、怒り、痛みの順に感情のステージを上りながら過去のトラウマを追体験し、やがて無条件の愛とエンシュージアズムに立ち返ります。このプロセスが起きているときは、クンダリニーの上昇によって燃えるような熱さが体感されます。この燃えさかる炎とともに、身体の再生が起こります。それがどれくらい続くのかは身体的損傷が癒やされる程度によって異なり、数時間に及ぶこともあります。必要な時間を費やすことによって、腫瘍が消え、麻痺した部分の神経回路が回復し、炎症を起こしている関節の石灰化が溶け去り、萎縮した臓器が再生されていくのです。

記憶を解放する際は、遺伝的記憶、すなわち両親や祖父母、あるいは先祖に起こった事柄の記憶も浮上します。抑圧された記憶は DNA 内に保存され、世代から世代へと引き継がれることがあるからです。遺伝的記憶が解放されると、遺伝性の病気が癒えることもあります。また、DNA は過去の記憶だけではなくて、未来についても多くの情報を保存しています。科学者はあなたの DNA から未来の容姿を予想することはできても、過去については何も言うことができません。DNA とはじつのところ未来のブループリントなのです。

量子物理学的見解によれば、あらゆる体験は現在と未来の間を両方向に伝わる量子波であるといえます。この波は両方向に作用するため、私たちが未来を創造すると同時に、起こりうる未来が私たちに創造しています。起こりうる未来はすべて、注意を引くために競い合い、出現を試みます。実際には出現しない未来も含め、それらのすべてが私たちに影響を及ぼしています。未来から及ぶ影響は現在の私たちを実現させており、じつに過去から及ぶ影響よりも大きなインパクトがあるのです。アルティメットヒーリングのプログラム経過中は、過去の記憶だけではなく、未来から及ぶ思考や感情にも取り組みます。

身体はホログラム構造をなしているため、病気の臓器を外科的手術で摘出して、病気の原因は依然として全身の DNA 中に温存されています。身体に現れる症状だけに対処したところで、取り残された原因は身体の別の部分で出現するはずですが、永続的な癒やしを可能にするためには、意識の変化が必要とされるのです。

ヒーリングの第一歩は無条件の愛のパワーを流せるようになることです。これはトランスミッションによって流せるようになりますが、バイオレット色（青みを帯びた紫色）の炎を視覚化することでも可能です。また、愛の法則を心得ておくことも欠かせません。愛し方を知るためには、愛が与えてくれる7つの要素をまず理解しておきましょう。その7つとは、心理的安全、喜び、価値、相手が自分のことを知っているという感覚、祝福、個性、そして存在の拡張です。これらを与えているとき、あなたは愛を与えています。もしこれらを与えていなければ、じつのところ愛してはいません。ニュー・エイジ指向の人た

ちはときに、「愛」という言葉を許しがたい行動の言い訳として使うことがあります。あなたの自尊心をたたきつぶすような非難をごろごろと浴びせておきながら、「だけど、愛してる」とさえ言えば、すべてが丸く収まるかのようです。けれどもそれで万事オーケーではありません。なぜなら彼らは愛していないからです。

ヒーリングの伝導を理解するために、私たちは誰も孤立していないということに気づきましょう。過去にこのワークをしたすべての人たちは軌跡を残してくれています。その軌跡とは力の集合体であり、エグレゴレ（類魂または思念形態）と呼ばれます。このヒーリングの背後にあるエグレゴレは大昔に遡ります。人間に似た生命体はシリウスで始まり、光の生命体として進化しました。彼らは人類の進化を助けるために地球に降り立ち、原始の魔術的な社会であるレムリアをつくりました。やがてレムリアは消滅し、人類は独自に魔術を探求することになりました。そうしてアトランティスが誕生したのです。

シリウス出身の輝く者たちは、人類よりもはるかに魔術的な発展を遂げていた妖精界と魔術を分かち合いました。それら秘密の知識はアトランティスが崩壊したあとも古代エジプトで存続しました。古代エジプトが滅ぼされたのち、輝く者たちの部族のひとつはハワイ諸島に赴き、カフナの家系になりました。ベルベル人となった部族もありました。ドラゴン族はハンガリーへ渡り、ロイヤル・コート・オブ・ドラゴンズを形成し、ペンドラゴンの氏族が生まれました。なかでも魔術師マーリンの系統は妖精界に師事しつづけました。アルティメットヒーリングの系譜はカフナの教えと私が血筋を受け継いだハンガリーの系統に由来しています。そして、私は今でも妖精から学びつづけています。この系譜のエグレゴレはヒーリングの伝導が起こったところに基づいており、私たちはこのエグレゴレによって創造主から放たれる無条件の愛のパワーと同調するのです。

バイオレット色に輝く炎は私たちのヒーリングを象徴します。そして、このヒーリングの本質はあなたの進歩とともに深まっていきます。なぜならその本質とは、あなたが創造主およびエグレゴレと共に行うコ・クリエーション（共創）の成果として生み出されるものだからです。これはかつてアトランティスでも行われていましたが、コ・クリエーションは各自がおのおの生み出す創造の合計よりも多くを生み出すため、過去のいかなる時代よりも深遠な癒やしが起こりうるのです。癒やしが深まるのにしたがって、さらなるトランスミッションが与えられます。

癒やしのプロセスを理解するためには、ノンジャッジメント（善悪の価値判断を下さないこと）および非同一化（感情や思考と自己を同一視しないこと）を学ぶ必要があります。私たちは感情を不適切なものとして抑圧しますが、あらゆる感情には効用があり、湧きあがってくる感情が何であろうと、あなたはそれを感じ取ることができます。たとえば、怒

りは毅然とした態度を引き出して、好ましくない状況を変えるために行動する意欲を起こさせます。恐れは感覚のすべてに脅威を警戒させることで、能力を最大限に発揮できるようにします。悲しみは期待が打ち砕かれてしまった際に行き場を失ったエネルギーを解放してくれます。痛みは危険に対する注意を喚起します。

感情と同一化する傾向が強いと、感情の解放が難しいはずですが、感情をあるがままに受け入れて、観察し、それと同時に感情とは単に自分が感じているものであって、自分は感情ではないということに気づいていきましょう。そうすることによって感情を歓迎し、手放せるのです。

癒やしの段階：基本コース（内分泌線）

基本コースは無意識を癒やすことから始めます。無意識は性腺に保存されています。無意識が癒やされると、性的能力と性衝動が回復します。無意識を癒やす過程では、麻酔、薬物、催眠術、その他の感情麻痺に関連するすべてを解放していきます。無意識はオーラに穴を生じさせます。そして自然は真空を嫌うため、何かがその穴を埋めることになり、さまざまな霊魂（spirit）や霊体（entity）や思念体（thoughtform）が侵入します。無意識を解放しているときは、それらの憑依体がひやっとした冷たい風となって身体から出ていくのを感じるかもしれません。たとえば全身麻酔を施す外科手術を受けた人は、それまでは思いも寄らなかった思考を思い浮かべるようになることがあります。麻酔をかけられなくても、3歳以下の幼児は自分のオーラを持っていないため、両親のオーラに守られていないときに霊体が入り込んでくることがあります。先祖の霊が入ってきやすいのもこの年齢層です。そのような霊は先祖の魂というよりも感情体です。激しい感情はエーテルの形態を生じさせます。未解決の感情を抱えたままこの世を去った先祖は感情体となってあとの世に残り、同じ血筋を引く人たちの中で存続しようとし、そのようにして幼児は先祖の感情的な問題を引き継ぐことがあるのです。幼少期は人格が形成される時期であり、先祖の感情的問題は根深く抱え込まれます。それらの問題は大腸に保存され、アレルギーの原因となります。アレルギーとは大腸が衰弱しているせいで異常な代謝産物の吸収を許してしまうことによって引き起こされるからです。そのようなアレルギー疾患は先祖の霊が去ると治ります。

次に癒やすのはアパシーです。アパシーは脾臓に保存されています。アパシーが癒やされるにつれて、社交性が富み、身体が活発になり、貧血および消化器疾患が癒やされてい

きます。感情面においては、抑鬱状態、絶望感、無力感などが癒やされるために浮き上がってきます。生きる意欲が失われたときの記憶がよみがえり、死の願望が起こることもあるでしょう。感情を解放するのに加えて、パワーを取り返すことも必要です。誰でも他者にパワーを奪われるときがあるものですが、失ったパワーは瞑想で取り返すことができます。樺の木あるいは榎の木の枝を用いて自分の周りの地面に時計回りで円を描き、円の外縁にパワーを奪った人を呼び出してください。彼らはあなたのパワーを手にはしています。それを取り返すのです。

生きる意欲を喪失する大きな要因のひとつに恥があります。恥は深刻な病気の背景となっていることがよくあります。恥の原因は3つあります。第1に、他者から押しつけられた恥があります。恥とは単に心理的な問題ではなく、形而上的な問題でもあるため、心理学では適切に対応できません。恥は引き継がせられるエネルギーなのです。たとえば、虐待とは自分で感じたくない恥を他者に引き継がせるための手段であることが珍しくありません。そのようにして押しつけられた恥は自分の内から絞り出して、押しつけた人に送り返す必要があります。

第2に、幼少期のトラウマから見いだした意味と重要性に起因する恥があります。幼い子供は自己と他者の区別を自覚できないため、自分の周りで起こることは何でも自分のせいだとみなしてしまいます。愛されていない子供は愛される価値がないと思い、恵まれない状況にある子供は恩恵に値しないと思ってしまうのです。このタイプの恥を癒やすためには、恥が生じた状況において自分がその出来事に対してどのような捉え方をしたのかを思い出し、それに対する新たな意味と重要性を見いだすことが求められます。

第3の恥は、許していない過ちから生じます。過ちを犯したときに悔恨の念にかられるのはいたって自然であり、それにより良心が発達し、変化がもたらされます。もし悔恨を感じないとしたら、自分には何かが欠けているように思えるのではないのでしょうか。後悔することで、あなたは自分が過ちを起こしたことを認めます。ところが過ちを恥じると、自分自身が過ちであるように思えてしまうのです。恥を癒やすためには許し方を知る必要があります。

恥を癒やすためには、「何（過ちそのもの）」を許すのではなくて、「なぜ（理由）」を許すことがもっとも重要な鍵となります。過ちを犯した理由を知るというのは、自分が犯した過ちを許すという意味ではなく、むしろ自分の弱さを認識することになります。たとえば性的虐待の多くの事例において、虐待行為は愛を表現する唯一の方法であったという主張がなされますが、それでは進歩は見込めません。虐待が愛情表現であるはずはないのです。しかしながら、もし虐待するしか悪意を表現する方法を知らなかった、もしくは誰か

に押しつける以外に自分の恥をどのように扱えばよいのか分からなかった、と言うのであれば、癒やしの可能性が生まれます。犯してしまった過ちをただ単に忘れ去るというわけにはいきません。それは感情を抑圧することになるからです。許すというのは複雑なプロセスであり、次の経過をたどります。否認、非難、自己憐憫、不正に対する憤り、全体的パターンの認識、すなわち自分には欠陥があると感じているせいで同様の失敗を繰り返すパターンに気づくこと、そのパターンから抜け出すこと、許し、の7段階です。これらのフィーリングをすべて解放することによってのみ、恥を完全に癒やせるのです。

アパシーの次に癒やすのは悲しみです。悲しみは、副腎、膵臓、そしてソーラー・プレクサスに保存されています。ヒーリングがこの段階に達すると、患者は被害者の状態から抜け出します。心ゆくまで悲しみを感じ取り、涙を流すことで、悲しみは容易に解放されます。落とし穴は自己憐憫です。自己憐憫とは単なる感情ではなく、存在のしかたでもあるため、抜け出せなくなってしまうことがあるのです。それを回避するためには、過去と未来の原因を理解する必要があります。自己憐憫の過去の原因は子供時代にあります。幼い子供は自分で欲求を満たせないため、他者からかわいそうだと思ってもらうことで欲するものを手に入れます。それを続けるかぎり、感情が成長するはずはなく、いつまでも被害者でいることとなります。

自己憐憫の本当の原因は未来にあります。すなわち、他者を心理的に操作し、罰し、何かを回避するために使われます。自分をかわいそうだと思ってもらうことで、他者を巧みに操ります。あるいは身近な人たちの自尊心を踏みにじることで、その人たちを罰します。自己憐憫に陥っている人に頼み事をしようとは誰も思わないので、責任を回避するためにも使われます。けれどもそのような操作を可能にするためには、過去の問題にしがみついている必要があります。本当の理由を認めてしまうと、操作がうまくいかなくなるからです。たとえば、自分をかわいそうだと感じているときに、誰かに「どうしたの？」と尋ねられたとします。もし「私はあなたを心理操作しているのです」と答えたとしても、彼らは納得しないでしょう。そこで、いろいろと問題を述べたてて自分をかわいそうだと思わせることによって彼らを手玉に取るのです。問題は、そのような心理操作を続けるためにはいつも問題を抱えていなければならないということです。それでは成功を手にすることはできません。成功してしまうと、同情してもらえなくなるからです。スピリチュアルな成長もありえません。スピリチュアルな能力を発達させるというのは、もらうより与えることであり、自分のパワーを認識し、責任を負い、ポジティブに考えることだからです。それらのすべては自己憐憫によって打ち消されてしまいます。自己憐憫から脱するためには、なぜそのような状態を続けているのか、そのせいで何を犠牲にしているのかに気づか

なくてはなりません。それから、インナーチャイルドの欲求を満たすことも必要です。欲求の満たされたインナーチャイルドが解放されることによって、あなたの成熟が可能となります。しっかりと嘆き悲しみ、束縛から解放されることによって、成長できるのです。悲しみのすべてを解放するためには、何時間も涙を流すかもしれません。

悲しみのステージはがん（悪性腫瘍）が癒やされる段階です。がんは細胞の同調化によって成長します。新たに生まれた細胞は周囲のエネルギーフィールドに同調するため、たとえば肝臓で生まれた細胞は、心臓細胞ではなく、肝細胞になります。同様に、がん細胞が周囲の細胞より強力な場合、周囲の細胞はがん細胞に同調してしまいます。その反対に、悲しみの解放によって身体エネルギーが高まると、がん細胞が周囲の細胞に同調するようになり、がんは消滅します。とはいえ、がんが癒やされるためには、無意識、アパシー、そして悲しみの順に感情を解放し、それにより身体エネルギーが高まっていなければなりません。この段階に至ると、がんが短時間で消え去ることもあります。それはまるで、患者が思いっきり嘆き悲しんでいる間に、がんの腫瘍そのものが涙となって流れ出ていくかのようです。

次に癒やす層は恐れです。恐れは胸腺に保存されています。恐れは向き合うのが難しいフィーリングです。トラウマを耐えがたいものとして恐れ、直視しようとしなない人もいます。もし自分の中の怒りを認めてしまったら自制心を失って何もかも破壊してしまうかも知れない、あるいは痛みを認めたらその痛みによって自分が破壊されてしまうかもしれない、と恐れているのです。けれども次の段階である怒りと心的苦痛に先立って、時間をかけてしっかりと恐れを感じ取ることはとても重要です。恐れが過ぎ去ると、怒りと苦痛に抵抗なく向き合えるようになります。恐れというのはつねに愛を取り囲んでいます。私たちがもっとも恐れているのは、愛を失うこと、愛の対象を失うこと、そして愛に応えられないことです。愛が大きければ大きいほど、恐れはより大きくなります。愛のあるかぎり、恐れが存在している可能性がつねにあります。よって、私たちは愛するために恐れを消し去ろうとするのではなく、恐れを乗り越えて愛する方法を学ぶべきなのです。これはつまり、恐れを歓迎しつつ、その背後にある愛に焦点を合わせるということです。背後に愛があるのを認識できたら、恐れを手放せるはずです。

私たちは自分が愛に値しないのではないかという不安のせいで、恐れと一緒に恥を抱えていることがよくあります。恐れと恥の組合せは免疫システムを破壊する最大の原因です。したがって、恐れと恥が癒やされることで免疫不全疾患も癒やされます。AIDS のレトロウイルス（HIV）は宿主の DNA を使って新しいウイルスを増殖させます。そのプロセスはがん細胞の同調化に似ています。この同調化を覆すためには、恐れを癒やすことによって

身体エネルギーのレベルを一段階上げる必要があります。そもそも免疫システムに最初のダメージを与えるのはウイルスではないという点を理解しておくことも大切です。免疫システムを弱らせるのは恐れと恥です。ウイルスが宿主を乗っ取れるのは、免疫システムが低下しているときだけなのです。

恐れと恥が解放されると、怒りが浮かび上がります。無視された怒りはいくつかの方法で隠蔽されています。そのひとつに罪悪感があります。罪悪感とはじつのところ許されない怒りです。たとえば誰かを失望させたときに、あなたは自分自身に腹を立てると同時に、もとはといえばあなたに何かを要求してきた相手に対しても怒りを覚えます。けれども被害を被ったのはあなたではなく彼らであり、その彼らに対して怒りを感じるというのはふさわしくないように思えるため、怒りを罪悪感に転化させることになるのです。自分自身に怒る許可を与えると、罪悪感は解放されます。

隠蔽された怒りのもっとも狡猾な表れ方は受難者です。すなわち、激しい感情に打ちひしがれ、かつ誤解され、ふさわしい評価を受けていないと感じている状態です。彼らの原動力は決して愛ではありません。受難者は無言の高潔な怒りを根拠に、無言の高潔な復讐を願っています。自分では手に負えないほどの重荷を引き受けるとき、じつは相手に罪悪感を抱かせることで彼らを罰しようとしています。自分の怒りを認めるというよりも、むしろ未来において自分の正当性を証明しようとしているわけです。ようするに、相手が当然の報いを受けるのを待ち望んでいるのです。けれども受難者は絶対にそれを認めないでしょう。なぜなら彼らは他者から誤解されているだけであって、自分には非が無いと信じているからです。もし重荷を背負いすぎているとか、誤解されている、あるいは不当に評価されていると感じているのに気づいたら、誰を罰したいと思っているのか自問してみましましょう。罰を与えたいのは決して自分自身ではないはずです。けれども受難者は開口一番「自分だ」と答えるでしょう。というのも、彼らはどのような影響が自分に及ぶのかということだけに目を向けており、自分が他者にどのような影響を及ぼすのかについては無関心だからです。本当に罰したいのは神かもしれません。自分の怒りを無視せずに、はっきりと認めることによって、怒りを歓迎できるようになり、解放できるのです。

自己のパワーや価値を著しく喪失したときに、激しい怒りはあなたを守る働きがあります。怒りを無視すると、エネルギーの低迷状態や冷笑的な態度として現れます。怒りというのはいくらどんなに表現したところで、失ったパワーや自己価値を取り戻さないかぎり、完全に解放されることはありません。しかし、自分自身に怒りを感じ取る機会を与えると、怒りから得られる力を利用して、奪い取っている人からパワーを奪回することができるのです。この段階において、パワーをエネルギーの玉として思い描き、それを取り返すヴィ

ジュアリゼーションを行うとよいでしょう。

怒りは甲状腺に保存されています。パワーを取り返すと、甲状腺の機能低下によって引き起こされているエネルギーの低迷状態が解消されます。また、甲状腺は石灰化を担っているため、怒りの解放によって関節炎が癒やされます。

次に癒やすのは苦痛です。苦痛は下垂体に保存されています。これは涙を流すことで解放できる悲しみとは異なります。感じることはできても、涙では届かない痛みがあります。魂に深い亀裂が生じているかのように感じられる痛みです。じつに、すべての痛みは分離を意味し、分離を癒やすためには痛みを受け入れるしかありません。痛みの種類は分離の性質によって決まります。身体的苦痛は、コントロールが断たれているときに生じます。例外なく、けがをするのはコントロール不能に陥っているときです。感情的苦痛を感じるのは、愛の感覚や帰属感を喪失しているときです。心理的苦痛が起こるのは、理解から切り離されているときです。自分の内側で分裂が生じているにもかかわらず、その痛みを抑圧しようとするれば、分裂はその存在を主張しようとしてさらなる痛みを生み出します。自分の内側の分裂を癒やさないかぎり、痛みを抱えつづけることになるでしょう。しかしながら、痛みを受け入れて分離に終止符を打つことによって、ハイアーセルフと再結合し、より高次の生命エネルギーを実現できるのです。ヒーリングがこの段階に達すると、認識力がより鮮明になり、記憶が回復します。そして自分の信念や選択をはっきりと自覚し、それらを解放できるようになります。

信念とは自分の身に起こった出来事に対して意味と重要性を与えることによって形成されます。信念の形成はさまざまな体験を通じて感受性が育まれる幼少期に始まります。そうして人生の初期に得た心象はその後の体験によって分析と証明がなされ、やがて信念として保存されます。けれども自分が体験した出来事を思い起こし、それらの体験に新たな意味と重要性を見いだすことによって、信念は変化します。そのような変化を起こすためにはアフメーション（自己肯定の言葉を自分に言い聞かせること）では不十分です。潜在意識は言葉に対してさほど注意を向けないからです。信念を変化させるためには感覚による裏づけが欠かせないのです。

激しい感情を伴う体験をしたときに行った選択はその後の人生を左右します。過去の選択の多くは制約となります。たとえば、恵まれない生活を体験し、少ない物資で済ませることを選択した人は、その後も不足した生活に甘んじるようになるでしょう。愛さないことを選択していると、いつしか人間関係を構築できなくなり、罰することを選択していると、やがて成功を生み出せなくなるはずですが、しかし、過去に自分が行った選択とそのときの雰囲気を感じて思い起こし、その場で感じた強烈さと同様の強烈さをもって新たな選択をす

るならば、新しい選択は必ずや古い選択に取って代わるのです。

下垂体は神経回路の修復を担っているため、下垂体を癒やすことによって麻痺している部分の動きが回復します。そのためには、麻痺状態を引き起こしている痛みを受け入れる必要があります。ヒーリングがこの段階に達すると、損傷部分の完全な再生も可能となります。そのような再生が起こるときは、クンダリニーの上昇によって燃えるような熱さを体感することがあります。

下垂体が癒えると、おのずと松果体の浄化が始まります。この段階に至ると、自分の現実を自分がどのように創造しているのかを完全に自覚できるようになるため、被害者の状態に陥ることはありえなくなります。これより先は、絶え間なく夢の顕現化に取り組んでいきます。そして、どのような問題が持ちあがるうとも、意識を変化させることによって、それらの問題をどのように変化させればよいのかをつねに知ることができるでしょう。霊能力が目覚めるのもこの段階です。

内分泌腺の次は、脊椎のヒーリングに着手します。脊椎はすべての臓器に神経を供給しているため、各臓器に対応する椎骨（脊椎を構成する個々の骨）の石灰化を解消し、神経伝達を回復させないかぎり、臓器が完全に癒やされない場合があります。また、脊椎は意志と深い関係があります。意志を曲げたりパワーを失ったりすると、そのたびに脊椎はゆがんでしまいます。だからこそ脊椎が癒やされるのにつれて、私たちは他者が仕掛けてくる巧妙な心理操作やコントロールの武器を認識できるようになり、それらを打ち破れるようになるのです。

コントロールの武器は主に8つあります。1つめはもっとも露骨な武器といえる暴力です。いじめ、レイプ、実際あるいは想像上の犯罪行為を罰するための投獄などがこれに当たります。2つめは恐怖です。非難、苦痛、孤独感、神への恐れなどによってコントロールを行います。3つめは罪悪感です。ふさわしい行動の基準をでっち上げることによって、いとも簡単に心理操作が行われます。4つめは虚偽です。嘘をつく、あるいは情報を差し控えることを意味します。必要とされる正しい情報が提供されず、自分にとって最善の決定をできなくさせられます。典型的な例として、不貞を働きながら、それを隠すことでパートナーに去られるのを防ぐというのが挙げられます。言い換えれば、心からの親密な関係を阻止してもいるのです。5つめは義務感です。罪悪感と同様に、ふさわしいとされる行動がでっち上げられ、それを尊重しなければならぬと思込まれます。6つめは利他主義です。他者のために自分を犠牲にするよう教えられます。そのような教えは、他者を自然と気づかう気持ちや慈しみをねじ曲げるために作り上げられています。7つめはイメージ操作です。あるイメージが仕立て上げられ、それに従って行動しない人は何かしら

の欠陥があるかのように思われます。「もし君が本当に男ならできるはずだ」といった言葉が使われがちです。8つめは承認です。不賛成を唱えることで、あなたがやりたがっていることを阻止しようとする方法です。これらの8つの武器をはっきりと認識し、そのコントロールを打ち破れるようになると、他者にパワーを奪われることは二度とありません。

クラニアル（頭蓋）・コース

脊柱のブロックが完全に取り除かれると、クンダリニーが頭部へ上昇できるようになります。クラニアル・コースでは問題の根本的原因を解消していきます。感情と記憶を越えて、原始のより深い無意識的なプログラミングへと進みます。まずは側頭骨から始めます。側頭骨は神経系のもっとも原始的な部分である小脳テント（大脳と小脳の中の硬膜）に接続しています。そのため、側頭骨への働きかけによって生存本能の根底に影響を及ぼすことができます。ここで知覚を覆い隠しているヴェールをはぎ取っていきます。このヴェールは脳内で機能する生存のためのテンプレートであり、知覚力を鈍らせています。これらのテンプレートは神経ペプチドを受け取り、感覚器が受容した情報を登録するために構築されます。そして、いかなる情報もテンプレートにそぐわないものは登録されません。すなわち、これらのヴェールはあらゆる体験をフィルターにかけることで限定された意識の範囲内に私たちを封じ込めているのです。

1つめのテンプレートは遺伝子とホルモンのヴェールと呼ぶことができます。遺伝子およびホルモンは、生殖し、新しい宿主を見つけるという独自の課題を持っています。それがなされたら宿主としての私たちが死んでしまってもかまいません。このテンプレートによって、女性は子供を欲しがるようになり、妊娠し、出産します。人生経験を広げようとした矢先に妊娠するという状況も起こりうるため、仕事などのキャリアをあきらめなければならない場合もあるはずです。他方、男性はできるだけ多くの種をまきつけたいと欲することになり、そのせいで愛に満ちた関係を築きたいと願っているながら、その関係を壊してしまうことにもなりかねません。また、生殖のチャンスを得るためには最適者でなければならないため、誰もがトップの座につこうとして、男性間で競争が生じることにもなります。

2つめは社会のヴェールです。このテンプレートによって私たちは社会への適合を優先し、個人を軽んじます。それぞれのヴェールは先行するヴェールの上に成り立っており、社会のヴェールは遺伝子のヴェールの上に構築されます。遺伝子のヴェールは強いリーダ

ーを必要とさせるヴェールであるともいえます。これによって私たちは有力者を信頼すべきと思われ、自分自身を信頼しなくなります。社会はそれ自体の存在を維持しようとする機能があり、全体のニーズのために個人のニーズが無視されるという状況がしばしば起こりますが、全体のニーズというのはとかく有力者の要望であるきらいがあります。また、社会は私たちをカオスから守ってくれるものであったはずですが、カオスが大自然の脅威を意味していた時代なら社会のヴェールは有用であったものの、現代においては創造性と魔術を可能にするためにある程度のカオスが必要とされています。個人のニーズ、自己信頼、そしてカオスを奪われている私たちは、じつにさまざまなリミットをかけられているのです。

3つめはエゴのヴェールです。競争原理によってエゴはすべてを優位性で測定しようとし、そのせいで私たちは優劣を競うゲームに熱中し、誇大化あるいは矮小化の錯覚に陥ることになり、そのどちらに陥るのであれ、本当のパワーを失うことになります。

4つめはパワーのヴェールです。競争に基づく排他主義的な社会では、レゾナンス（共振または共鳴。ヴァイブレーションの近い振動体が影響し合うことによって強い相互作用が起こること）によってではなく、インパクトによって能力を測ろうとします。傷つくことを恐れずに奇跡を起こせる人がパワフルだとは評価されず、他者を突き動かす力の持ち主がパワフルだとみなされます。ここでレゾナンスを理解するために、今この瞬間にあなたはハイアーセルフと女神がもたらしてくれる愛に包み込まれているということに思いを巡らせてみましょう。愛をどれくらい受け取れるのかは、あなたのレゾナンスにかかっています。もっと愛するように女神を強いることはできません。なぜなら、女神ははじめから惜しみなく完全にあなたを愛しているからです。けれどもレゾナンスを変化させることによって、より大きな愛を受け取れるようになり、現実を全面的に変化させることも可能なのです。これが本当のパワーです。

5つめは不幸せのヴェールです。不幸せは生存本能の働きのひとつに数えられます。幸せなとき、私たちは危険を警戒しなくなるからです。ひとりで幸せなひとときを過ごしていたとしましょう。そこへ、あなたに頼み事をしたい人がやってきたら、あなたは一瞬にして悲しそうな顔をするのではないのでしょうか。不幸せを演じていれば、頼み事を押しつけられにくいというわけです。とはいえ、幸せなまま断わることもできるのです。

6つめは過去のヴェールです。私たちは何気なく過去の経験を参考にして、起こりうる脅威に対応しようとし、そうすることによって脅威の原因は過去にあると思い込み、原因と結果の世界に閉じ込められることになります。しかし根本的な変化を起こすためには、過去の原因ではなくて、未来の原因に目を向けなければなりません。いつの瞬間にも

複数の起こりうる未来が出現しようとしており、もっとも関心を得た未来が実際に出現します。過去との共同作業によって変化を生み出したところで、限定的な効果しか得られません。未来をふるいにかけ、培うことによって、根本的かつ永続的な変化を生み出せるのです。

7つめはアディクション（嗜癖）のヴェールです。あらゆるアディクションの根底には過去または自己特別視への依存が潜んでいます。アディクションのヴェールは、エゴのヴェールと過去のヴェールが厚みを増すにつれて形成されていきます。

これらのヴェールは生存本能であるため、理性的な方法で解放するのは不可能であり、しかるべきポイント・ホールディングを施すことが求められます。この段階において、ヒーリングを本能的なレベルまで行き届かせるためのトランスミッションが与えられます。

クラニアル・コースで次に働きかけるのはトリプルアクシスと呼ばれるポイントです。このポイントを押さえることによって、蝶形骨の翼状突起、下顎骨の筋突起、そして頬骨弓の3か所に作用させます。それにより、翼突筋、咬筋、側頭筋が解放され、下垂体、松果体、そして甲状腺に反射作用的な効果がもたらされます。そして、もっとも根深い痛みが解放されていくとともに、ハイアーセルフとの分離が癒やされていきます。頭蓋骨が正常な形状に戻ると、頭蓋は増幅器となり、思考のパワーを10,000倍に増幅して放射できるようになります。さらに、ほとんどの人にダメージがみられる非常に繊細な蝶形骨の翼突鉤も再生され、霊的波動を送受信するためのアンテナとして機能できるようになります。こうして霊能力が回復し、ハイアーセルフとのつながりが修復されます。

サードアイ・コース

サードアイ・コースでは透視能力（千里眼）とマニフェステーション能力（顕現力）を目覚めさせるために、アステリオン（星状点ともいう。ラムダ状縫合、頭頂乳突縫合、および後頭乳突縫合の合点）と眼窩上孔のポイントに働きかけます。ここに至るまでに解放したさまざまな感情パターンの根底にある3つの根本的な不足感、すなわち愛、コントロール、そしてセキュリティが不足しているという感覚にアクセスし、それらを解放していきます。また、願望の顕現化を妨害しているすべての制約的な信念も解放します。これまではそれぞれの信念に対してひとつずつ対処してきましたが、これより先は、すべての現実思考によって顕現されるものであり、したがって私たちは何であれ顕現できるという真実と密接につながります。あらゆる信念は程度の差こそあれマニフェステーション能力

にリミットをかけています。そこで、信念を超越し、真実に気づくためのエンパワメントが与えられます。これにより制約的な信念のすべてが効果的に解放されます。さらに、後頭部に位置するサイキックゲートを浄化することによって社会のヴェールを完全に拭き取り、他者から降りかかってくる影響を退けられるようになります。

私たちはサードアイが目覚める過程で破壊のパワーを見いだします。そしてシャドウを受け入れます。自分は善い行いしかできないと自負するのではなくて、邪悪な行いもできるけれど、善い行いを選択しているのだということを自覚しなくてはなりません。また、破壊の必要性を理解することも必要です。もし破壊がなければ、エネルギー・フィールドは不要となった古い形態が散乱し、乱雑な状態となってしまおうでしょう。破壊のパワーを自分のために作用させることで、思念体や霊的パラサイトを打ち砕き、ネガティブな出来事の具現化を防げるのです。そのために、願望に意識を向けるときに浮かび上がってくるネガティブなフィーリングを連続的に解き放っていきます。引き続き感情のステージを上っていきますが、これまでとは少し異なります。たとえば、最初のうちは願望を視覚化するとき疑いや絶望感を感じるかもしれませんが、それらのフィーリングを歓迎し、解放することによって、それまでは捨てきれなかった悲しみや怒りを踏み越えて、失敗を恐れる気持ちを克服し、勇気、希望、肯定的な期待、ワクワク感、確信、安らぎにたどり着くのです。そのような高次の感情に達すると、願望は必ずや顕現するでしょう。

マニフェステーションのプロセスを強化するためにはハイアーセルフと力を合わせる必要があります。まずは願望を描写あるいは象徴化し、それをじっくりと見据えて記憶にとどめてください。次に、ユニヴァースの全エネルギーを自分の中に引き入れるイメージを思い描きながら、深呼吸をゆっくりと4回行います。それからハイアーセルフに贈り物として捧げるために、頭上約 60 センチの所にこのエネルギーが上昇していくのを視覚化してください。続けて、そこへ願望の描写または象徴が上昇していくのを思い描きます。その際はハイアーセルフに願望を見せることをしっかりと意図しています。どのような種類のものであれ浮かんで消えてゆくフィーリングに注意を向けて、それらを喜んで迎え入れましょう。穏やかな気持ちで願いはかなうという確たる自信を感じられるようになったら、このプロセスは終了です。願望はまもなく顕現するでしょう。

クラウンチャクラ・コース

クラウンチャクラ・コースは、神、女神、All-That-Is と私たちの関係を明確にします。

それにより私たちは無限性に通じ、真の意志および運命とつながり、ユニヴァースと親密な共創関係を確立します。ここでワークするポイントは、左右のプテリオン（前頭骨、側頭骨、頭頂骨、および蝶形骨大翼が接合する縫合線）、ラムダ（ラムダ縫合と矢状縫合の交点。乳児の場合は小泉門という）、ブレグマ（矢状縫合と冠状縫合の交点。乳児の場合は大泉門という）、そしてステファニオン（冠状縫合の側頭窩上に位置する部分）です。この段階において、私たちはなぜ源から分離したのか、そして分離に関する最初の想いが何であったかを思い起こします。私たちは個人としての自分が誰なのかを知るために源から分離しました。しかし自己を発見した暁には、必然的にではなく、みずからの選択によって、女神を愛する状態に立ち返ることを約束していたのです。

源から分離するための後押しとして、私たちは偽りの宗教をつくり出し、それによりパワーを喪失しました。そうしてあたかも女神が私たちに背を向けているかのように見せかけることで、私たちが女神に背を向けられるようにしたのです。それに続くのは苦痛に満ちた分離と忘却の旅でした。しかし自分が誰かを知ることによって、私たちは源と合流し、分離に対する想いを思い起こします。それとともに喜びと愛に満ちた旅が始まります。この旅に乗り出す際は、宗教をつくり出したのは神を見失うためであって神を見いだすためではなかったという点を理解するとともに、宗教的な条件づけのすべてを乗り越えなければなりません。悪によって魂が滅ぼされるという概念を仕立てあげることで魂の救済が人生の大義名分となり、宗教はどのような行為であれ正当化できるのです。

隣人よりも豊かになることを許さない利他主義によって、私たちはパワーを完全に発揮できなくされます。罪の概念によって、恵みを享受するのに値しないと思わせられます。自分自身に対して肯定的な気持ちを抱いたり喜びや豊かさを望んだりするのはごく自然なことであるのに、自尊や性欲や所有欲は大罪であるという教えによって、そのような願いはとがめられます。恩恵を得るためにはそれに値しなければならぬという考えや罪の意識は手放さなければなりません。何かを享受するのにふさわしいかどうかは関係なく、私たちは生まれながらに何なりと受け取る準備ができています。それなのに、いつしか自分は恩恵に値しないと思わされてしまいます。私たちの現実とは、享受する資格があるからではなく、享受したい意欲があるから生み出されるのです。それに値しなくてはならないということはなく、それを望んでいけばよいのです。また、この段階において、共生的罪悪感（他者に対して哀れみや優越を感じるによって生じる罪悪感）、および心理的負債感も解放します。共生的罪悪感とは他者より多くを持つべきではないという考えから生まれますが、じつのところは私たちが他者との親密さを求めることに起因しています。他方、心理的負債感は私たちを過去の制約に縛りつづけます。せっかく優雅な成功を収めて

も、それに対していつまでも負い目を感じていなければならないとしたら、過去の苦勞がばかばかしく思えるのではないのでしょうか。この種の罪惡感は合理的な方法では解放できないため、トランスミッションを通じてハイアーセルフに取り除いてもらう必要があります。

分離について抱いた最初の想いはカルマのパターンに一定の傾向を生じさせ、その傾向は人生から人生へと受け継がれていきます。たとえば最初の想いが孤独であったなら、孤独感は不断のテーマとなります。何度も繰り返されるパターンはカルマのウェブ（蜘蛛の巣状の網）を構築し、根幹をなすウェブは自己の現れ方を決定づけます。これは感情的なレベルに保存されているわけではありませんが、破ることのできない習慣を生み出す素材となります。生涯を通じて読書にいそんでいた人にとって、読書はもっともたやすい行為となるはずですが、もしその人がアスリートになろうとしても、そのための条件を満たしていません。それと同様に、禁欲主義の人生を何度も繰り返した人は、ロマンチックな関係を顕現させたいと願っても、そのためのレゾナンスを持ち合わせていません。そのようなカルマのウェブを払拭するためにはある種のエネルギーが必要とされるため、ここで追加のトランスミッションが与えられます。同じような制約に縛られた人生を7回以上繰り返すと、非常に稠密なカルマのウェブであるサンスカーラ（サンカーラ）が形成されます。通常、これは変化させられません。しかしセクメトに関連するこのエネルギーはサンスカーラも解放することができます。これはサードアイによって見いだされる破壊のエネルギーをさらに強化したエネルギーです。

私たちは創造主との結びつきを発見するにつれて、善悪の観念を解放します。そもそも善と悪はひとつの源から生じています。それを理解するために、ダークシャドウとライトシャドウを共に受け入れます。自分自身に関して無視したいネガティブな要素はいろいろとあるものですが、私たちはじつに多くのポジティブな要素を無視してもいます。けれども光と闇を受け入れるなら、その両方に共通する要素を見いだせるはずですが、たとえば、あなたは激しい憎しみを生み出すこともできれば、激しい愛を生み出せもするということが気づくかもしれません。そこに共通しているのは強烈さです。この強烈さとは、自分がありのままの創造力とどのように関係しているかを示しています。ひとたびこの生（なま）のパワーとつながると、あなたは神、女神、All-That-Is とコ・クリエーションを始めます。クリエーションから、よりパワフルなコ・クリエーションへ移行するのです。また、善悪の観念を手放すというのは、邪悪な行いをするにはなりません。なぜなら、それを手放すことで、私たちは運命とより深く接し、自己の美質に反応するようになるからです。じつに善悪の観念の解放とは、新たな技能を身につけ、スピリチュアルな事柄を探求し、

これまでとは異なる行為選択を試み、変化し、成長し、新たな意味を見つけ、その意味に価値を見だし、人生の難題に立ち向かい、超越し、古い価値をより優れた価値に差し替えることなのです。

ここでワークする3つのポイント（プテリオン、ラムダ、ブレグマ）は、サイキックセンサーと呼ばれる無意識的なメカニズムも解放します。潜在意識は生存を容易にするために一貫性を要求します。そのため、たとえば心霊現象など、この一貫性を覆す現象はすべて否定されます。そのような現象に遭遇すると、潜在意識がパニックに陥るせいで病気になることさえあります。霊能力を開花させるためには、まずサイキック・センサーを解除しなければなりません。これはとくに左右のプテリオンへの働きかけが効果的です。

このコースではさらに2つのトランスミッションが与えられます。ひとつは発音できない言葉のトランスミッションです。これは神の聖なる名前です。声で発せられる言葉ではありませんが、ヴァイブレーションとして感じられる創造のレゾナンスです。このヴァイブレーションを自分の内側で感じられるとき、あなたは創造主のパワーとつながっています。ふたつめは誓約のトランスミッションです。源から分離したとき、私たちは誓約を受け取っていました。それは女神が私たちとコ・クリエーションをしてくれるという約束でした。このトランスミッションによって、そのときの誓約が思い出され、神、女神、All-That-Isとのコ・クリエーションが可能になります。また、クラウンチャクラ・コースで与えられるふたつのタリスマンは魔術的なワークとヴィジュアリゼーションを吸収し、保存し、繰り返します。そのため視覚化を一度だけ行えば、あとは願いが顕現されるまでタリスマンがビジュアリゼーションを繰り返してくれるため、マニフェステーションに必要とされるワークを軽減することができます。

マニフェステーションセンター・コース

マニフェステーションセンターとは、ソーラー・プレクサスの近くにある願望を顕現させるのになくてはならない微細なチャクラです。マニフェステーションセンターの状態を検査するのは簡単です。おへその右側に5センチ四方のアルミホイルを光沢面を表にして貼り付け、1時間そのままにしておきます。アルミホイルのふちはすべて粘着テープで留めてください。1時間後、もしアルミホイルに無数の小さな穴が開いているなら、エネルギーの漏れがあることが示されています。マニフェステーションセンターの損傷している人たちが貧困にあえぎ、健全に機能している人たちが豊かさを実現しているのは、決して

偶然ではありません。このコースはマニフェステーションセンターを完全に癒やすことを目的に設計されています。

マニフェステーションセンターを癒やすための重要な前提条件があります。その条件とは、取るよりも与えることに意欲的でなければならないということです。取ると与えるの間には大きな隔たりがあり、まるっきり異なるレゾナンスをもつ互いに相容れないふたつの心的傾向が見られます。取る人は、自分は他者より恵まれていないため、与えることはできないと信じています。彼らは与えることを回避したりもっと要求したりするための言い訳として自己憐憫を使います。そして自己憐憫を正当化するために苦難の連続をつくり出します。そのような心構えでは豊かさを生み出すのは不可能です。それとは対照的に、与える人は信頼感を持って生きています。だからこそ彼らは与え、より多くを生み出します。そして創造主とより密接に波長を合わせられるようになります。与えるというのは創造主の特性だからです。豊かさを生み出すために求められているのが後者の心的傾向であるのは明らかです。これはすなわち、言い訳をするのではなく、自己憐憫に浸るのでもなく、他者にとって価値あるものを与えられるように努力するということです。とはいえ、必ずしも物質的に与えるという意味ではありません。最良の寄与とは自分自身を与えることです。自分の強さを与えるとき、あなたは拡張します。与える人になろうと努力することによって、たちどころにレゾナンスが変化して、創造力が発動するのです。

マニフェステーションセンター・コースはコ・クリエーションのパワーを伝導するためのトランスミッションから始まります。ふたつの存在が共同で創造するとき、結果として生じるエネルギーは各個のエネルギーの合計よりも強力なものとなります。よって、私たちが神、女神、All-That-Is と共創するとき、その結果は神、女神、All-That-Is のエネルギーより偉大なものとなり、途絶えることなく超越していくエネルギーとなるのです。

パワーが封じ込められている原因のひとつに、古代になされた無力化の記憶があります。はるか昔、人類はより強大なパワーを持つ種族に奴隷化されており、束縛をふりほどくパワーを遮断され、低次の存在として抑え込まれていました。その種族は私たちより強力だったため、私たちはその呪縛を解くことができませんでした。しかしながら、支配と管理の世界に囚われている存在はコ・クリエーションのパワーに通じていません。それゆえ、コ・クリエーションのパワーとはまさに、私たちがみずから束縛から解放し、すべてのパワーを回復するためにもっとも手に入れるべきパワーなのです。このトランスミッションとワークすることによって、ついに私たちはパワーを遮断している障壁を取り除けるようになります。それにより意識が驚異的に拡張します。そして、すべての制約を手放せるようになり、奇跡に開かれた状態となるのです。

私たちは制約を手放す過程で混乱状態に陥ります。あらゆる形態とは制約だからです。したがって、カオスを具現化してしまうのではなく、ポジティブな望みを顕現させるためには、自分の真の意志と同調することが重要です。魔術伝承はもうひとりの慈悲深い自分が存在する完璧な世界を描写しています。その世界において、私たちの分身は神聖な計画に従い、すべてのパワーを完全に発達させた状態で、創造主と親密な関係を分かち合いつつ、愛と喜びと豊かさのある生を送っています。この慈悲深い分身と調和することによって、私たちは神聖な計画に向かって前進し、真の意志を思い出します。ここで、この分身とつながるためのタリスマンが与えられます。このタリスマンに加えて、身体を再構成する方法を身体そのものに思い出させるために、先に与えられた神聖なエッセンスのトランスミッションよりもさらに高次のトランスミッションが与えられます。このタリスマンと毎日ワークすることによって私たちは神聖な計画へと導かれます。それにより人生はとどまることなくポジティブになっていき、霊性（スピリチュアリティ）は絶え間なく拡張していくでしょう。

このコースで与えられるもうひとつのタリスマンはヴリルを発達させます。ヴリルとは完璧な世界からやってくる神聖なエネルギーであり、すべてのネガティブなエネルギーから私たちを守ってくれます。ひとたびヴリルがアクティベートされると、いかなる魔力もあなたを傷つけることはできません。完全な充足へと向かうあなたの成長が邪魔されないことを保証してくれます。

トランスミッション

基本コースで最初に与えられるトランスミッションは参加者をエグレゴレに結びつけます。これにより参加者は進化と変容のパワフルな流れに乗ります。次に、クンダリニーを上昇させるためにドラゴンの火および神聖なブループリントのトランスミッションが与えられます。神聖なブループリントのトランスミッションは変化の過程において身体がすばやく完全な状態に移行することを約束します。そのためクンダリニーが上昇する際の安全が確保され、いかなるダメージの及ぶ心配もありません。

その次に与えられるトランスミッションは遺伝子の記憶に影響し、DNA の変化と進化を可能にします。これは遺伝性の病気や機能不全の癒やしを促進します。また、家系に受け継がれている感情的あるいは精神的なパターンや習癖を取り除きます。基本コースのトランスミッションは以上です。

クラニアル・コースでは、遺伝のより深い部分に作用するトランスミッションを加えます。これは知覚を覆い隠している7つのヴェールを払拭することに狙いを定めています。

サードアイ・コースのトランスミッションは信念を解消し、どのようなものであろうと私たちはそれを生み出すことができるという真実に導くためのエンパワーメントとして与えられます。

クラウンチャクラ・コースでは、共生的罪悪感と心理的負債感を解放するためのトランスミッションが最初に与えられます。その次に、カルマのウェブを除去する破壊エネルギーのトランスミッションが与えられます。これは終結のエネルギーであり、セクメトまたはオメガとして知られています。それからマニフェステーションを促進するために、さらに2つのトランスミッションが与えられます。ひとつめの発音できない言葉のトランスミッションは、あなたを神性なパワーに結びつけます。ふたつめの誓約のトランスミッションは、神、女神、All-That-Is とのコ・クリエーションが可能であることを思い出させてくれます。

マニフェステーションセンター・コースで与えられるトランスミッションは、神、女神、All-That-Is と共創するためのエネルギーです。このコ・クリエーションのエネルギーは既知のいかなるエネルギーよりも速やかに、抑圧のエネルギーやカルマを解消し、進化のペースを速めます。このコースではさらに、慈悲深い分身のトランスミッションが与えられます。これによってあなたは神聖な計画と途切れることなく調和を深めていくため、人生がどんどんポジティブになっていきます。

以上に加えて、奇跡に開かれるトランスミッション、高次のガイダンスのトランスミッション、マニフェステーションのトランスミッション、そして預言能力のトランスミッションがあります。これらは次第に高まっていくヴァイブレーションであり、先立って与えられたトランスミッションによって、カルマが浄化され、ヴァイブレーションが上昇すると、段階的に獲得できるようになります。奇跡に開かれるトランスミッションはその名のとおり、さまざまな奇跡が起こりうる状態を生み出します。高次のガイダンスのトランスミッションはハイアーセルフに通じるクリアーなチャネルを開通させます。マニフェステーションのトランスミッションはあなたの手の内に物理的なマニフェステーションが起こるよう、次元の扉を開きます。これが伝導されると、ヒーリングの最中に、クリスタル、植物の根、香油など、霊界からの贈り物が手の内に顕現するのを体験するようになります。そのような贈り物を手にすることで、霊界とコンタクトしているという刺激的な感覚が生み出されることでしょう。そして、預言能力のトランスミッションは未来を見るためだけのものではなく、未来を変化させることも可能にします。これら高次のトランスミッシ

ンはコース終了後に与えられます。

食事

ヒーリングプログラムの経過中は身体に大きな変化が起こるため、それを支えるための十分な栄養を摂取することが重要です。骨の再構成には多量のカルシウムが必要とされます。内分泌腺を再生するためには亜鉛が不可欠です。身体が必要とするすべてのミネラルを確実に摂取するためには、種々のコロイド状ミネラルを摂るのがもっともよい方法です。なお、土壌中の石油化学系肥料は植物がミネラルを吸収するのを妨げてしまうため、オーガニック食品を選ぶようにしましょう。また、酵素をたっぷりと摂取することも重要です。酵素は体内で起こるあらゆる変化の過程に必要とされる触媒として機能します。

適応分泌の法則は身体が一定量の酵素しか分泌できないことを示します。すなわち、身体は消化酵素を多量に分泌する必要があると、ヒーリングなどその他の身体的変化のプロセスに必要とされる代謝酵素を少量しか分泌できなくなるのです。ローフード（高温加熱処理されていない食物）には消化を助ける酵素が含まれています。酵素は加熱調理によって破壊されてしまうため、加熱された食品の割合が高い食事は身体に消化酵素を分泌する必要性を増大させることとなります。そのため、ヒーリングプログラムの期間中はローフードの食事が求められます。身体が大きな変化の過程をたどるときは十分な酵素の摂取がいっそう重要となるため、オーガニックのローフードに加えて、コロイド状のミネラルと自然由来の酵素サプリメントを摂取することが推奨されます。

身体に備わる自浄作用を促すためには、コーヒーやアルコール、および精製食品や加工食品などの有害な食品を回避することも肝心です。化学添加物と遺伝子組み替え食品も避けなければなりません。また、タンパク質の供給源であるナッツや種子は、24時間ほど水に浸して酵素抑制物質を分解させてから食べるようにしましょう。乾燥している状態の種実類には休眠状態を維持するための酵素抑制物質が含まれているからです。発芽する寸前まで水に浸すことによって酵素抑制物質が分解され、酵素が活性化します。ミツバチ花粉、栄養酵母、ウィートグラス（小麦若葉）、藍藻（スピルリナ等）などの自然由来サプリメントも助けとなります。他方、合成ビタミンはヒーリング・クライシスを抑制し、変容を妨害することになるため、避けなければなりません。たとえば風邪を抑制しようとして大量のビタミンCサプリメントを摂取すると、薬物を摂取したときと同様に目に粘液の輪が形成されます。すべてのビタミン剤には合成物が含まれているからです。自然由来のビタミ

ンC 500mg の錠剤があるとすれば、ゴルフボールほどの大きさになるはずですが、ビタミンCの活性化を促す自然成分は 47 種類もあります。単体の合成アスコルビン酸（ビタミンCサプリメント）にはそれらの成分がまったく含まれていません。大原則は、科学技術を盲信するのではなく、自然を信頼するということです。

ヒーリング・クライシス（好転反応）

進化とはかならずしもゆるやかな段階を追って起こるわけではなく、多くの場合、危機に直面したときに起こる突然の変化が重なることで成り立っています。著しい変化を体験しているときは、身体とマインドと人格のすべてが再構成されるため、一種の危機的状況が起こりうるのです。身体面においては、自浄作用によって毒素があらゆる開口部から出ていくため、鼻水、咳、吐き気、下痢などの症状が現れるかもしれません。短時間の発熱もよくある症状のひとつです。それらは癒やしのプロセスの一環であり、抑圧しないことが大切です。じつにヒーリングクライシスを起こしているそのような症状のおかげで、ヒーリングクライシスのプロセスを速やかに乗り越えられるのです。前述したピュアな食品はヴァイブレーションを上昇させるため、このプロセスを後押ししてくれます。ちなみに、ヒーリング・クライシス中はキネシオロジーの筋肉反射テストが正しく機能しません。というのは、筋肉反射テストは個人のバランスに対して機能するものだからです。ようするにヴァイブレーションを高めるものはそれまで維持してきたバランスを損なうものであるため、テストをすると筋肉に力が入りません。ところがヴァイブレーションを低下させるものはそれまでのバランスに引き戻すものであるため、テストをすると筋肉に力が入ります。よくある間違いとして、バランスを欠いたと感じてキネシオロジストに会いにいき、筋肉反射テストで自然食品に対する反応を調べると弱い結果が出るため、自然食品にアレルギーをもっているとみなされてしまいます。反対に、ヴァイブレーションを低下させる合成サプリメントをテストすると強い反応が出るため、それらのすべてを摂取するようアドバイスされます。テストの結果に従うなら、ヴァイブレーションが以前の水準に引き戻されて気分はよくなるでしょうが、突破口が開かれることはありません。

過去に抑圧した感情が再浮上することによって感情面にもヒーリング・クライシスが起きます。その際は感情を歓迎することが重要です。そうすれば感情はすぐに過ぎ去るでしょう。けれども感情のヒーリング・クライシスに抵抗を感じる人もいます。というのもエゴとは大きな変化に抵抗するものだからです。抵抗を阻むためにはエゴの言語を

認識できるようになる必要があります。エゴはいつも非難し、否定あるいは正当化します。ですから、非難、否定、正当化しているのであれば、あなたはエゴに囚われているということです。エゴの発展がどのステージで止まっているのかを知ることも役に立ちます。幼児期のエゴは世界を危険な場所とみなし、自分の要求が十分に満たされるかどうかを心配します。思春期のエゴは自分が十分に優れているかどうかを気にします。成人期のエゴは自分の成長または発展が十分な速さで達成されているかどうかを案じます。そして、完全に成熟したエゴは自分が充分であることを知っています。エゴはこれらのステージを経て成熟していきます。エゴの癒やしを始めるためには、まずエゴにはどのような働きがあるのかを理解しましょう。それから瞑想の中で癒やしと成熟をハイアーセルフに託します。エゴの状態を見きわめるために、自分が他者よりも優れていると感じるのは何か、非難し、否定し、正当化している対象は何か、そして自分は世界とどのように関係しているのかに目を向けましょう。エゴが成熟すると、あなたは変化に抵抗しなくなり、ヒーリングクライシスはスムーズかつ速やかに過ぎ去っていきます。

シャーマンのピーター・アジズが指導するアルティメットヒーリングおよびボディエレクトロニクス・アドバンスド・ポイントホールディング・コースについての詳細は、www.azizshamanism.com をご覧ください。

このハンドブックの多くの内容を含む [YouTube ビデオインタビュー](#) もあわせてご覧ください。

ソーシャルメディアへのアクセスはこちらからどうぞ
[ニュースレターの登録と無料オーディオコース（英語） "Take Back Your Power"](#)
[Aziz Shamanism ブログ](#)
[Aziz Shamanism Facebook](#)
[Aziz Shamanism YouTube チャンネル](#)

Copyright © 2005 AzizShamanism. All rights reserved.